

# 委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

## 1. 視察概要

委員会名	情報化対策特別常任委員会
委員名	鹿野良太, 石田政博, 山田匡身, 早坂憂, 中鉢和三郎, 後藤錦信
日時	令和 5 年 3 月 14 日 (火) から 3 月 15 日 (水)
視察先	1. 岩手県奥州市 2. 岩手県遠野市
出席者 (説明者)	1. 奥州市議会 議長 菅原由和, 議会運営委員長 藤田慶則, 副委員長 小野優 議会事務局 千田憲彰 2. 遠野市議会議員 公聴広報常任委員長 小林立栄氏 遠野市議会事務局長 朝倉宏孝氏, 遠野市議会事務局 主査 松本康子氏

## 2. 視察内容

視察項目	1. オンライン会議について(奥州市) 2. 議会広報誌について, 議会公式 Facebook について(遠野市)
視察内容 【質疑応答】	1. オンライン会議について(奥州市) ■オンライン会議について オンライン会議の検討状況として, 災害・感染症まん延だけでなく, いかなる場合でも, いかなる場所においても, 議員が会議に参加できることを大事としている。 また, オンライン会議は「活用」していくため, 介護や子育てしている議員も参加できる体制の整備をしていくことが必要である。 オンライン会議の運用については, 運用ルールは周知することとして, 現状では, 「要綱」とはしていない。まずは実績を重ねており, 規則・条例での最小限の規定となっている。 議場での採決システムについては, 一度, コロナで参加できなかった議員がオンラインで採決をした事があるが, 課題はあり, 今後の検討が必要である。 リモート参加の時, 接続ポイントは LTE 回線なので, これまでに支障はきたしていないが, 職員が Wi-Fi 対応の端末なので, LTE と違っていつでも参加できる状況ではないので, 今後の課題となっている。 会議中の録画カメラは, 現在のタブレットのカメラ機能を使用して対応しているが, カメラワークする職員が必要なので, 今後の課題となっている。 【質疑応答】 問 オンライン委員会導入に至るまでの障害及び解消方法について 答 慣れていない議員がいたので大変であった。介護や子育てしている方には, オンライン会議も大事だと感じている。

問 オンライン委員会で使用している端末について、画面を見ることと資料を見ることが1台で完結できているのか。

答 ズームを開催する時に資料提供をする。画面の上の部分に資料を載せて、下部分に顔を映して使用している。また、2台活用している議員もいる。

問 オンライン委員会に出席するにあたり、参加場所を限定しているか。また、自宅や議員の事務所以外のロケーションにおける委員会参加についての検討状況はどうだったのか。

答 会議の内容にもよりますが、場所の限定はしてない。背景の決まりはない

問 本人確認方法について

答 画面上で確認している。

問 クリアな音声での発信のため、イヤホンマイク等の準備が必要と思われるが、備品はどのように準備したか。もしくは、端末のマイクのみで音声を拾うことになっているのか。

答 タブレット端末だけで対応している、個人でイヤホンマイクを購入している議員もいる  
主音が悪い時があるが、マイクで対応している。

問 通信状況により、会議システムから離脱した場合の出席状況はどのようにみなされるか。

答 通信状況が悪かった事はいままでなかったが、長時間会議に参加できない場合は早退扱いとしている。

## 2. 議会広報誌について、議会公式 Facebook について(遠野市)

### ・事業内容

#### ■議会広報誌について

遠野市議会の議会だよりは、原則毎号フルカラーの20ページで構成され、一般質問については各議員が1ページずつ掲載をし、必ず大項目を2つ選び、一問一答方式で原稿を整え、必ず写真(場合によってはイラスト)を使用するというルールで運用されていた。フルカラーによる見やすさや全員同じような紙面構成であることの読みやすさを感じる反面、構成を縛った事による文字数の不足やバランス調整の難しさにより、論点の分散や白紙の部分が目立つなどデメリットも多かった。

その他にも、紙面上での様々な工夫が見えた。「わたしのひとこと」というコーナーでは、各議員から推薦された市民のまちづくりの夢や希望についてを掲載し、市民の生の声を誌面を通して共有することができる取り組みや、議会だよりクイズとして、内容をしっかりと読めば正解がわかるクイズを複数出題し、正解者の中から抽選で市内で使える商品券をプレゼントするなど、より身近に感じてもらい、読んでもらえるように努力をされて

いることがとてもよくわかる内容となっていた。発行までのスピードも早い様だったが、大崎市との大きな違いは「一般質問が予算質疑よりも先に行われる事」。これによって、議会開会中に原稿を入稿して内容を審議し、発行を急ぐことができるが、やはり議会中に様々進めることは障壁も多く、議会内からも反発が多かったという。現在もよりよい形を模索中ということで、我々の編集作業にも参考にしたい。

#### ■議会公式 Facebook について

遠野市議会の公式 Facebook は令和元年 7 月 1 日から「遠野市議会公式 Facebook 運用方針」を適用し、運営がはじまった。(令和元年 9 月 30 日までは試用期間とされていた)運用方針では

- 1 目的
- 2 利用ソーシャルメディア
- 3 掲載情報の範囲
- 4 想定される利用者
- 5 対応時間
- 6 コメントの返信
- 7 運用管理者等
- 8 禁止事項
- 9 著作権
- 10 個人情報の取り扱いについて
- 11 免責事項
- 12 その他
- 13 適用
- 14 本ページに関する問い合わせ先

を定め、適切で定型的な運用がなされるように各項目が網羅されていた。

しかし、やはりしっかりとしたルールを決めるということは、逆に言うと「自由な投稿ができない」ということであり、機械的な内容の繰り返しになってしまうというデメリットも感じられた。本来 SNS は双方向のやりとりを楽しむものであり、一方的な「告知」に近い投稿ばかりではせっかくの SNS のメリットを生かし切れないという声もあった。

#### 【質疑応答】

問 議会だよりの表紙の写真を選ぶ基準は。

答 遠野市は 9 つの町(地域)で構成されているため、順番に地域を回している。内容については特に決めておらず、担当となった委員(場合によっては議員)に任せている。委員会の委員だけでなく、議会全体で担ってもらい、掲載地域のバランスを保っている。

問 一般質問での写真掲載は必須か。

答 写真は出来る限り使ってもらおうように働きかけているほか、掲載項目も大きく分けて 2

つの話題で構成し、同じような構図になるよう努めているが、ページ数に余裕が無い  
ため、構成には課題が残っている。

問 youtube 配信についての記載があるが、市民からの反響は。

答 議員ごとに分けて配信をしており、多い議員で再生回数は 100 回を超えるくらい。若  
い方が見てくださっているようだが、特別これといった反応は今のところ無い。

問 「わたしのひとこと」のコーナーについて

答 応募を行ってもなかなか手を挙げて頂ける事は少ないため、全議員で手分けして声  
をかけている。掲載させて頂いた方には市内で使える商品券を差し上げており、好評  
である。

問 SNS にきたコメントに返信しない理由は。

答 他の自治体でも多くが返信を禁止している事もあり、返信を担当する人によって内容  
に偏りが生じることを防ぐためでもある。ただし、SNS としての魅力である双方向のやり  
とりが出来ない分、発信力が低下していることも否めない。

問 担当している事務局の負担が大きくなっていないか。

答 担当職員が自らのスマホで対応しているため、その部分では負担が増えていること  
は事実。良い意味でも悪い意味でも機械的な投稿しかできないため、場合によっては  
担当職員も「もったいない内容だ」と感じることもあるようだ。継続的な課題として捉え  
ている。

問 SNS を運用する上で困ったことは。

答 閲覧数やいいねが伸び悩んでいることは率直な悩みである。それぞれの議員が拡散  
を行ったりすることも必要と考えるが、出来る議員と出来ない議員どちらも存在するた  
め、地域の偏りや内容のバランスに配慮する必要もある。

問 SNS として Facebook のみを選んだ理由は。

答 他の SNS と比べて実名で登録している方が多いため、無用なトラブルを避けやすい  
と考えた。他の SNS との連携についてはこれから考えたい。

<p>考 察</p> <p>【所感・課題 ・提言等】</p>	<p>1. オンライン会議について(奥州市)</p> <p>大谷翔平選手の地元でもあり、市役所の中にも、大谷選手と握手できるように工夫がされていました。地元で盛り上げようという気概を感じました。</p> <p>奥州市における議会改革でICT化の推進事例を紹介していただき、参考になる事例も多くあり勉強になりました。また議長の所信表明でも議会ICT推進方針の明確化を掲げており、議会全体で取り組んでいました。議会改革はスピードが重視で取り組んでいて、課題が出たら、対応している現状でした。まずはやってみるが改革の前進であることがわかりました。大崎市でもオンライン会議または、議会だよりについて、改革できるように委員一丸となって取り組むべきと感じました。</p> <p>2. 議会広報誌について、議会公式 Facebook について(遠野市)</p> <p>遠野市議会広聴広報常任委員会の皆さんが、市民にいかに関心を持ってもらい、そして読んでもらうかについて、これまで何度も何度も真剣に話し合い、様々な試行錯誤を重ねてきたことが伝わる視察研修だった。議会だよりの一部を「楽しめる内容」や「市民の考えを見る機会」にする事で手に取るキッカケを作り、身近な読み物になる工夫が色々見えたこと、紙面構成についても統一感を出し読みやすさを感じさせるなど、参考になる内容がとても多かった。特に、委員会の中だけで完結させず、より良い紙面にするためには進んで全議員に協力を求めるなど、委員会の枠にとられない活動には心から敬意を表すると共に、我々大崎市議会情報化対策特別委員会もこれまでのやりかたにこだわらず、今の時代の進め方や考え方、ニーズに沿った新しい形を模索していく必要性を強く感じる事ができた視察研修だった。</p>
------------------------------------	--

以 上